

地域と協同の 研究センターNEWS

2020年5月25日発行
189号

【巻頭言】

南医療生協は新型コロナウイルス感染症とどう向き合うか

南医療生協専務理事 成瀬幸雄

- 1、2019年12月から中国・湖北省武漢市で広がった新型コロナウイルス感染症は、2020年1月16日には日本ではじめての患者確認がされ、新型コロナウイルス感染症はまたたくうちに全世界にひろがり、WHOは3月11日にパンデミック（感染症の世界的な大流行）を表明しました。
- 2、南生協病院では、2月29日夕方にはじめての患者さんを確認し、その日の午後11時半から記者会見を開き、情報を公開し、感染の広がり防止に全力をあげました。この一連の経過は読売新聞4月24日から6回にわたって連載され、3回目では「入院患者励ます生協組合」という見出しで、協同組合らしい組合員の取り組みが報道され、私は誇らしく思いました。
- 3、政府の緊急事態宣言が4月7日に7都府県、16日には47都道府県でだされました。
5月に入って一定の効果が表れていますが、感染の2波は暫くして来て、3波、4波…と続いていくといわれています。
- 4、にもかかわらず医療機関には感染予防の医療用具が足りません。市民はマスクでさえ、市場で手に入れるのが困難な日が続いています。こうした中で、南医療生協では組合員が700枚の布製の手作りマスクを製作して、高齢者独居・二人世帯などを訪問し、安否確認とマスクが無ければ無料で手渡し、南医療生協が協力できることを聞いて回っています。
- 5、パンデミックと「世界恐慌以来の経済不況」が同時に押し寄せてくるといわれている今、それぞれの協同組合が、何ができるか？何をすべきか？組合員と地域社会のためにどういう貢献できるか？が問われているのではないのでしょうか？
- 6、南医療生協は「新型コロナウイルス感染症（Covid-19）対応方針」を発表して、役員・職員・組合員に①行政や地域などあらゆる人々と協力して、高齢者や病気の人、新型コロナウイルス感染症したひとや、そのご家族を大切に、②感染予防活動を普及し、③職員、患者、利用者の安全を第一に考えて医療活動をすすめ、④発熱外来を開設、⑤ささえあう地域の信頼のネットワークをひろめ、⑥正しい感染情報の共有、などを当面の行動指針とすることを明らかにしました。
- 7、新型コロナウイルス流行がいつの日か収まったとき（できるだけはやく収まってほしい）、この地域に協同組合があってよかった、協同組合をもっともっとバックアップせないかなあと、地域からいわれるようになってほしい。そういう人と人の信頼関係を紡いでいきたい。

以上

5月18日（なるせ ゆきお）

研究センター5月の活動

18日（月）第12回常任理事会	25日（月）市民講座運営委員会
23日（土）地域と協同の研究センター第20回通常総会 オンライン企画「持続可能な2040年にむかって」	30日（土）おたがいさま2040研究会 オンラインで開催

※ コロナウイルス感染拡大予防のため、予定していたさまざまな活動を自粛しています。

目次	<p>【巻頭言】</p> <p>南医療生協は新型コロナウイルス感染症とどう向き合うか 成瀬 幸雄 1</p> <p>ゆたか福祉会 新型コロナウイルスと障がいのある人 後藤 強 2</p> <p>コープあいち 新型コロナウイルスの緊急事態宣言発出期間の状況 伊串 徹 2</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の発生に伴う、名古屋市の2週間休業要請を受けて 一通所介護・デイサービス友の高齢者の実態と対策報告— 小早川 弘江 3</p> <p>「人口減少社会と協同組合の役割」第4回公開セミナー— 都市と若年世代の未来 情報クリップ 8 10</p>
----	--	---

新型コロナウイルスの感染に関わり、地域と協同の研究センター会員の、地域で奮闘されておられる皆様の取り組まれていること、知って欲しいと思われていることを寄稿いただきました。ご紹介いたします。

ゆたか福祉会 新型コロナウイルス感染と障害のある人

ゆたか福祉会理事・法人本部長 後藤 強

ゆたか福祉会は、名古屋市南部を中心に、主に障害のある方への支援を展開している事業所です。2月末に、運営する一つのグループホームで、3名の入居者が新型コロナウイルスに感染していることが判明しました。直ぐに関連のグループホームと作業所を閉鎖し、2週間にわたって70名を超える利用者・職員の自宅待機を実施しました。その後、2名の感染が新たに判明しましたが、それ以上の拡大はなく3月の中旬より平常に戻り、現在に至っています。しかし、5名の感染者のうち1名の方の症状が悪化しお亡くなりになり、残り1名の方はまだ入院中です。

障害のある人たちのなかには、感染防止のための自衛措置を講じることが苦手な方が少なくありません。また、基礎疾患をもたれた方も多く、感染した場合に重症化するリスクも高いと言われています。そして何よりも日々の暮らしを営むうえで人による支えが不可欠ですが、感染防止のために人との接触を最大限に避けることが推奨される毎日が続いています。また、千葉県の障害者施設で大規模な感染が発生した際にあつたように、感染者やその関係者に対する不当な非難や、常識をはずれた差別・排除の言動は相変わらず各地でおきています。外国からは、医療崩壊を避けるために人工呼吸器等を優先的に装着させる順位を決めるなど、「いのちの選別」を伝えるニュースも入ってきています。こうしたトリアージの議論は、日本でも一部の医療者や研究者の間で始まっていると聞きます。

体の外部から侵入したウイルスに対抗する免疫機能が、時に正常な細胞まで攻撃し始めることを自己免疫性疾患と言うそうですが、コロナに感染された社会もまた同様に、それを封じ込めようとする過程のなかで、正常な社会活動や関係性の破壊をもたらしているように思えてなりません。

この出口がいつどのような形になるのかまだ分かりませんが、今はまず感染の防止と障害のある方たちの暮らしに丹念に向き合い、日々を重ねていく時だと感じています。

以上
(ごとう つよし)

コープあいち 新型コロナウイルスの緊急事態宣言発出期間の状況

生活協同組合コープあいち ブロック運営部 尾張北ブロック長 伊串 徹

4月17日に緊急事態宣言が全国に拡大し発出され、愛知県、岐阜県は、特定警戒都市として前出の7都府県同様の感染対策が求められました。

緊急事態宣言発出後の宅配事業では、急激な利用者の増加と共に利用再開と新規加入者の対応が急務となり、4月4週にピークを迎え、利用者数167,471人、供給高10.5億円となりました。一方、宅配では物量が増える中、欠品・利用制限などで今もなお、ご迷惑をおかけしている状況となっています。(日生協商品を筆頭に欠品と集品稼働時間が長時間化し、集品不可能に陥る寸前に。また、新規利用者及び利用再開者は一旦ストップし待機者数は、現在2,300名を超えている状況となっており、6月以降までご利用をお待ちいただいている状況です。)

そのような中、組合員、生協で働く人たちの安全を最優先目的とした緊急対策会議を連日開催し、各種課題に対処してきました。現場支援は、過去最大規模で宅配センター業務を支援しました。また、物流面でも要冷のセットセンターの稼働が限界に近い状況だった為、本部や東海コー

プの職員のみなさんにも、4月27日からの2週間に於いて最大限のご支援をいただきました。

配達先では、頂いた声を集約し、WEB ミーティングの開催を幾度も重ね、職員が配達先で困った事例については、説明する文書配布（抽選方法や欠品に至る経過などのチラシ作成）を行うなど、様々な対応を現在も取り組んでいます。また、多くの組合員のみなさまから職員及び、産地メーカーさんへ感謝の声を頂きました。一方で欠品及び、抽選により予定していた商品が届かないことへのお叱りや苦言も多く頂いています。頂いた声につきましては、全ての職員が受け止めた上で説明対応を行い、組合員のみなさまにご理解頂いている状況です。

店舗では、毎日が土日並みの来店者を迎え、多忙な日が続く中、福祉では、利用者に感染させない、自らも感染しないという緊張と不安の中、奮闘いただいています。店舗、福祉のみなさんも宅配と同様、厳しい中ですが、今後も全職員あげて、当面の危機を乗り越えていきたいと思いをします。

世の中全体が、先行きが見えない不安とともにストレスが溜まっている事と予測されます。こんな時こそ、生協商品で家族一緒に楽しく食事をされる事を提案していきます。現在、紙製品や備蓄できる食品（米・缶詰・レトルト商品）の利用が多くなっています。組合員のみなさまにも冷静に対応していただくよう呼びかけるとともに、私たちは、当面、事業に集中し、組合員の期待に答えていきます。体制の厳しい中、また先行きの不安が広がる中ではありますが、全力で組合員のくらしを守り、生協への信頼感を高めていきたいと思いをします。

以上
(いぐし とおる)

新型コロナウイルス感染症の発生に伴う、名古屋市からの2週間の休業要請を受けて

—通所介護施設『デイサービス友』の高齢者の実態と対策 報告—

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館 高齢部部長 小早川 弘江

記者発表が先、突然の休業要請

3月6日、午後3時半、名古屋市健康福祉局から、「新型コロナウイルス感染予防のため、緑区、南区の通所介護事業所126カ所に事業の休業要請の通達」のFAXが送られてきました。突然の休業要請は翌日3月7日から20日までの二週間でした。

通達は、三枚の用紙のみ。一枚目は、局長名での、休業要請の内容です。二枚目は6項目の留意事項。三枚目は雇用調整助成金の追加実施のあらましでした。

通達が届くと同時に、CBCテレビと東海テレビから取材の依頼が入りました。

名古屋市長が、お昼過ぎのニュースにて「休業の要請」を記者発表したとのこと。職員室には、家族からの問い合わせの電話もなりだしました。

突然の通達に、私たちデイサービス職場は混乱と緊張が高まりました。

すぐに、理事長、事務局長に連絡をいれ、緊急職員会の招集後、対応についての報告や相談をすることとしました。

緊急職員会の開催

16時30分、通常の送迎に出発し、職員が帰り次第、緊急職員会を招集しました。

デイサービス通所介護職員のみではなく、法人内の居宅介護支援事業所ケアマネージャー、小規模多機能の管理者、看護師、配食サービスの職員など高齢事業所の参加可能な職員の参加を求めました。

夕方、5時30分から職員会を開催しました。

デイサービスの現状を広く伝えていただくため、報道の取材は受け入れていくことを職員とともに、了承しました。

通達の読み合わせを行い、基本的には、「高齢者に感染した場合、命にかかわることを理解し、35名の登録者の方に自宅待機のお願いは進める」こととしました。

それを踏まえ、利用者さんの介護、家庭状況の討議に入りました。介護士、看護師、ケアマネージャーから、二週間の自宅待機が困難であろう、利用者さんの状況が次々に出されました。

- ① 98歳で一人暮らしのAさんは二週間も自宅での生活は無理です。
- ② 94歳のBさんの息子さんが病気で伏しています。食事がつくれません。
- ③ 障がい者のグループホームの利用者さんは、日中の支援がありません。
- ④ 99歳、介護度5のCさんは、ほぼ全介助です。娘さんも高齢で、自宅での二週間の生活は無理です。
- ⑤ Dさんは発作があり、デイサービスのお迎えで、発見し、緊急搬送を何度かしています。
- ⑥ Eさんは、自宅のカギを開け徘徊し、パトカーのお世話になっています。特養の空き待ちです。
- ⑦ Fさんの東京にいる娘さんから、「コロナ感染は怖い、一人でマンションにいるほうがもっと怖い、デイサービスを利用させてほしい」と電話がありました。
- ⑧ 自宅では、入浴が困難な方がいます。週に3日は入れてあげたい。
- ⑨ ショートステイの空き情報を見ます。
- ⑩ ヘルパーの訪問回数を調節します。

私たちは、翌日からの対応を迫られる中、「利用者さんの尊厳や暮らしを守る。」高齢部の方針に立ち戻りました。

名古屋市の留意事項にもあります「どうしてもデイサービスが必要なご利用様がお見えになる場合にはこの限りではありません。」の項目で、利用者さんや家族の理解を得ながら、今後の運営を以下のように確認しました。

- ① 利用者さんやご家族に自宅待機をお願いをする。
- ② 利用者さんの実態に合わせ、困難な方は受け入れていく。
- ③ 感染者を出さないための衛生環境の整備。消毒の徹底。利用者の接触の防止。換気の徹底など。早急に「感染防止介護マニュアル」を具体的に作成する。
- ④ 二週間、閉鎖は行わず、縮小しながら開所をしていく。
- ⑤ 介護職員の感染防止マニュアル作成も進める。

私たちは、「現場職員の討議と意思統一抜きには、利用者の尊厳や暮らしは守れない」を大切にしてきましたが、まさにその実践が問われる日々のスタートでした。

法人本部への報告

社会館の法人は3月当初には、「新型コロナウイルス感染対策委員会」を設置。安全衛生委員会を中心に厚労省や名古屋市の感染予防対策資料が次々と各職場に送付されていました。理事長自らが力を入れ、「感染防止指針」を組み換え、修正しながら提示していただいていたいました。

デイサービスの「感染予防を進めながら、縮小しての開所」の方向に賛同いただき、万が一にも、職員や利用者さんから、感染者が出た時は閉鎖、公表していくことも確認されました。

理事長は「これだけ、感染予防を頑張っているのだから、感染者が出た時は記者会見もやりますよ」と心強い言葉で、後押しを受けました。

休業要請1日目

3月7日土曜日、休業要請1日目が始まりました。利用予定者19名のうち、10名の方が、自宅待機に応じてくださいました。昨夜の突然のお願いに快く応えていただき、申し訳ない思いでいっぱいでした。

職員みな緊張の面持ちで、「感染を出さないよう、明るくがんばろー」を合言葉にスタートしました。

床、手すり、机、椅子、トイレ、エレベーターのアルコール消毒を終え、窓を開け放し、朝のミーティングを開始しました。

- ① 送迎車の運転手は車や車いすの消毒に専念し、窓も換気し乍ら走る、運転手自身の手洗い

や消毒、マスクの着用、ユニホームの交換。送迎終了後の消毒の徹底を確認しました。

- ② 職員も検温し、37 度以上あれば、遠慮なく管理者や主任に報告し、出勤停止すること。
- ③ 利用者さんは自宅で検温をしてから送迎車に乗り込んでいただく。昼食後、帰る前、日に 3 回の検温を行い、体調の変化をつかむ。
- ④ 換気は一時間に一回すべての窓を開ける。
- ⑤ 利用者さんにも、マスクの着用を依頼する。呼吸器系疾患のある方にはお願いしない。
- ⑥ 利用者さんの席は広く取り座っていただく。

当日のご利用者さん 9 名の方には朝のつどいで、経過を説明し、安全に安心してご利用いただくようお願いしました。自宅待機にに応じていただいた利用者さんお自宅訪問を主任と副部長が行いました。訪問できない方は安否確認等を電話で行いました。

休業要請の中で

受け入れの利用者さんを以下のように、決めました。

- ① 高齢で一人暮らしの方。独り暮らしの方は 7 名です。中には 98 歳の方が 2 名います。
- ② 車いすの生活で、自宅では入浴が困難な方。
- ③ 介護度 5・4 の方。食事、排せつ、入浴などほぼ全介助の方。
- ④ 認知症で、多動な方。自宅から出ていかれ、見守りが必要な方。
- ⑤ 家族が病気で、食事等介護できない方。

などです。

本来、自宅での生活が困難な高齢者の方たちです。二週間の自宅待機に応じていただいた方は 7 名でした。また、受け入れ人数を減らし、接触を避けるための生活空間を広げるため、20 名定員のところ、約半数の受け入れを行ってきました。4 回利用の利用者さんを 2 回の利用とか入浴と、昼食後は帰っていただくなどご協力をいただきました。自宅待機の方のご家族から、不整脈があるから、誰か家に行ってほしいと訪問要請があり、看護師と、副部長が自宅に向かいました。バイタルチェックやお話をして、安全に自宅待機を続けていただきました。自宅待機はいつまで続くのか不安は大きくなりました。

利用者さんの状況 職員からの報告

- 1 週間以上お風呂に入っていない方から次々と入浴の希望がでてきました。熱が 37 度 2 分でしたので、自宅待機をしていただいています。20 日の送迎が終わって利用者さんが帰ってから、夕方 5 時くらいから入浴をしてあげたいと思います。
- 協力休みを取っていただいている、利用者さんの訪問を行いましたら、3 月 11 日、午後、「会社の書類をなくして困った」とオレオレ詐欺のような電話があり、息子の電話と違ったので、おかしいと思い、「誰か来てー」と声を出すと、電話を切ったそうです。
- 高齢の利用者さんのデイサービスが閉鎖されているため、喫茶店に常にいるそうです。お客さんから「おしっこの異臭がする、お風呂くらい入れてあげたらいいのに」と連絡がありました。閉鎖している事業所の、責任者にお電話してお話しました。
- 二週間自宅待機の H さん(介護度 2)は一步もお家から出なかったとお話されていました。
- 二週間のお休み中、一度も入浴しなかった利用者さんの連絡をご家族から受けました。
- コロナ感染が怖いので、デイサービスはしばらく通いません。の連絡が二件入りました。名古屋市の二週間の休業要請の中、自宅待機に応じていただいている利用者さんや、利用日数を減らしていただいた利用者さん、ご家族に申し訳ない思いでいっぱいでした。

報道各機関の受け入れについて

全国で初めて、介護事業所の休業要請を名古屋市がだしたことで、事業所閉鎖をしないデイサービスという話題性で朝から報道関係者が押し寄せました。

- ① 新聞、テレビ局の取材は受け、丁寧に対応していく。高齢者の介護施設の役割を広く伝えていきたい。
- ② 報道の対応は高齢部長と、副部長が対応し、現場職員は介護支援に専念していく。

- ③ 報道関係者がはいることを利用者さんに丁寧に説明する。
- ④ 併設の保育園や学童保育、通園施設の施設長に連絡し、父母からの疑問に対応していただく。
- 連日のように、新聞、テレビの取材が入りました。たくさん報道に、菜の花保育園及び、法人各事業所の利用者さんや職員の皆さんにご心配をおかけして本当に申し訳なかったと思います。
- 記者やカメラマンの方には、消毒、マスクをしていただき、利用者さんとの接触は避けながら、対応しました。
- 利用者さんには、朝のつどいで説明をし、テレビにお顔が映っていいか、個々の了解も取りました。
- 報道の方々の中には、「コロナ感染のリスクがあるのに開所するのか」という問いかけもありましたが、高齢者デイサービスのご利用の大切さ、デイサービスを二週間も停止した時、どのような危険があるのか、利用者さんのケースに基づき、説明させていただきました。
- 若い記者の方たちに、高齢者福祉の制度と課題を知っていただきたい思いでいっぱいでした。他の事業所の施設長とも連絡を取り取材協力を広げました。
- 報道については、視聴後、できるだけ感想や意見を伝えてきました。記者から励ましのお手紙も来ました。
- 某局には、「体力的にも環境的にも、制度的にも、よわき高齢者事業所の感染拡大が悪のような報道に対し、正確性が足りない。」と深夜まで抗議しました。今思うといいすぎた感があります。
- BS・TBS 報道番組では、リアルタイムで国会議員の方々と、デイサービス休業要請の中での利用者さんの生活実態や、国や名古屋市の休業補償要望について対談させていただきました。
- その後、報道の成果ではないでしょうが、名古屋市の休業要請は全国初のコロナ感染休業補償実現になりました。
- 驚いたのは、テレビは嫌、と言っていた利用者さんたちが、テレビ取材にも慣れ、成長し、「ここがないと、生きていけらなでよー」と画面アップでデイサービスを語り始めていただいたことです。
- 自宅待機の利用者さん家族も取材に応じてくださり、利用自粛の限界を語ってくださいました。それらを聞きながら、介護の仕事の喜びをかみしめました。
- 地域から、全国から、海外からの支援に心より感謝！**
- 日に日に、マスクもアルコール消毒液も底をつき、診療所や保育園に譲っていただきながら、配給を待ちました。名古屋市からアルコール消毒液の配給が通達され、名古屋南高校に取りに行きました。並んで僅か 500 ミリリットル二本を受け取り、「この国は何かおかしい！」怒りと切なさが沸き上がりました。
- 厚労省からは 3 回に分け、布マスクが 40 枚とどきました。利用者さんも職員も、布のマスクを洗って使いまわすことは、衛生上不可能でした。郵送費も含め無駄な税金投与にあきれてしまいました。
- そんな中、テレビや、新聞報道を見たからと、近所の方が、送迎車の運転手に 20 枚のマスクを渡してくださいました。
- 大阪の福祉雑誌編集者から、「中国の留学生が帰国し、マスクを贈ってきたので、使ってください。」と 600 枚のマスクが送られてきました。
- 名古屋在住の韓国の青年ボランティアさんから、「マスク贈ります」と 50 枚のマスクが届きました。
- どれも飛び上がるほどうれしい贈り物でした。
- アフリカのケニア、スラムのスクール副校長から、労りのメールが届きました。
- 武豊のイチゴ農家さんから、「いちご狩りができないから、みなさんで食べてください」と摘みたてのイチゴがどっさり届きました。お昼に利用者さんといただきました。イチゴ農家の経営も大変な中、高齢者福祉の利用者さんを思っただき、甘酸っぱいイチゴをほうばり、涙がこぼれました。

「以前、デイサービスでお世話になったから、頑張って」とトマトが箱で届きました。

北海道の苫小牧から、「全国紙で、名古屋市に休業補償の緊急要望書の提出を見ました、施設の衛生設備の足しにしてください」と 30 万円の書留がきました。経営の不安が大きくなった中、ありがたい寄付金でした。

メールや、電話での励ましもたくさん届き、職員ともども、感謝いっぱい、コロナ感染拡大防止業務縮小の中、介護支援の大きな力になりました。

バッシングも当然ありました。地域の方から「デイサービスに行くとコロナ感染する」「デイサービスに行っている人の家には行けない」「テレビが入っているから感染者が出た」

しかし、それらの言葉になんの動揺もありませんでした。「利用者さんの命と暮らしを守る」そんな使命感でいっぱいでした。

休業要請の終了をむかえ

名古屋市においてもコロナ感染の広がりがあり、二週間で、感染拡大が収まる状況下ではなく、デイサービスの休業要請はさらに続くのではないかと懸念されました。

しかし、3月18日、電話とFAXで、3月20日をもって終了との通達が入りました。職員みなで歓声を上げました。夕方の送迎車を見送りながら、「今日も何もなくて一日終わった」安堵とため息を繰り返す日々でした。

職員には、通達やミーティングを重ね、「感染をもちこまない」自粛要請を行いました。離れて暮らす両親の介護に通うこと、食事に出かけること、買い物の回数を減らすことなど、厳しく要望し、よく応えてくれました。「胃が痛くなりました。」「痩せました。」「職場と自宅の往復だけです。」と語る職員に「大宴会やって、ごちそうするから、頑張れー」と声をかけながら、職員の頑張りに感謝しました。

利用者さん、ご家族に「終了のお知らせと今後の対応」のお手紙を作り、全家庭に届けました。

さらなる感染防止へ

職員会議を開催し、通常業務、定員 20 名の利用者さんの受け入れについての「感染防止マニュアル作成の再検討」を行いました。特に、

- ① 利用者さんの密接を避けるため机を 6 本増やし席の距離を広げ、車いすが安全に通れる動線確保をする。
- ② 昼食は利用者さんのみで、職員は食介に専念し、時差で離れてとる。
- ③ 検温は日に三回行い、37 度以上は自宅待機していただき、訪問していく。
- ④ ボランティアさん、音楽療法、業者、見学者等の入室を停止。
- ⑤ カラオケや外出など、リクレーションのみなおし。
- ⑥ 職員は引き続き、感染予防に取り組む。

などです。実施に向け、喧々諤々の会議を行いました。介護の仕事は、利用者さんにピッタリ寄り添いながらの支援が必要です。今さらながら、コロナ感染で、高齢者支援の温もりを奪われるようなさみしさを感じました。

3月21日土曜日、利用者さんがデイサービスに戻ってきました。日常が、どんなにうれしいか。にぎやかな日々が再開されました。

名古屋市に休業補償緊急要請をおこなう

3月31日、あいち在宅福祉サービス事業者懇談会として休業要請を受けた、126カ所すべての事業所に休業補償を求める緊急要請書を提出しました。市長は一億円の補償金額をだすと明言しました。現在、その申請書の受付が始まっています。岡田市議員には、休業要請発令から、名古屋市の窓口を開いていただき感謝しています。介護事業所を閉鎖することのない補償や、高齢者の命や暮らしを守り、働く職員が生きがいを持てる、制度の拡充がさらに重要です。

2020年5月21日 (こばやかかわ ひろえ)

公益財団法人 生協総合研究所との共同開催 「人口減少社会と協同組合の役割」第4回公開セミナー 都市と若年世代の未来

～生協はどのような地域連携に参加できるのか～ 開催しました

— オンラインの試みにスポットをあてての報告 —

文責：伊藤小友美（事務局）

2020年4月4日（土）地域と協同の研究センターとして2回目のオンラインによるセミナーを公益財団法人生協総合研究所と共催で開催しました。9時、ウインクあいちの発信会場にはスマホ・タブレット・パソコン・延長コード等を持ちこみ、8人ほどの運営スタッフが準備を始めました。当初、会場での開催を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインで開催し、100名を超える参加申込がありました。

zoomでのオンライン参加の申込をいただいた方へは、事前にミーティングIDとパスワードをお知らせしました。facebookからの参加の方はグループ検索をしていただきグループメンバーになっていただくとライブ配信をご覧いただけるという案内をしました。これらはメールでの案内ですが、希望の方すべてにきちんと案内がされ、当日の参加は、事務局も含めた事前申込者、地域と協同の研究センター 88名・生協総合研究所 20名 で計108名、開催中のmaxの参加者は zoom 56名・facebook 15名、発信会場事務局7名 で計78名、開催後のfacebookグループ参加者93名でした。途中、画面共有ができないハプニング、ハウリングによる音声の乱れ等もありましたが、的確な誘導のもと、ひとつひとつ解決していきました。

プログラムと報告者は以下の通りです。

基調講演

成元哲(ソン ウォンチョル)氏(中京大学現代社会学部教授)

「社会的結合の三つの原理とその混合の可能性」

～子ども食堂が切り開く互酬・再分配・交換の新しい混合～

問題提起①

近本聡子氏(生協総合研究所)

「人口移動と家族形成・子育て支援の状況から」

問題提起②

向井忍(地域と協同の研究センター)

「生協は若年層にどのように関わっているか」

問題提起に基づく意見交換



発信会場

10時、「ただいまよりオンラインセミナーを開催します。発信の場所は名古屋のウインクあいち、基調講演をいただく成先生はご自宅にいらっしゃいます。」とのアナウンスで始まりました。

<セミナーの趣旨> 向井 忍

これまで山間地域、地方型都市をとりあげてまじきたが、今回のテーマは「都市と若年層」です。人口減少は日本だけの話ではなく、世界でも高齢化と出生率の低下が一致しています。

現在感染が広がっている新型コロナウイルスの問題について、いくつか報告をします。公衆衛生上の危機を言われた中、院内感染を発生させず、あらためて受診も再開されている南医療生協の専門家の努力、組合員の努力は素晴らしいものでした。励ましのメッセージ、病棟へのワゴン販売等、実に協同組合らしい支えあいをされています。これは、協同組合には支える組合員の応援があるという地域での経験です。あらためて協同のあり方を若年層、若いみなさんといっしょに考えたいと思います。

＜基調講演 概要＞ 成 元 哲 先生

◆ もうコロナ以前の世界には戻れない ◆

まずは、コロナウイルスの関係で、パンデミックが切り開く関係性の再編を話したいと思います。最初この講演の依頼があったときは、こんなにコロナウイルスでパンデミックになるとは思いませんでした。

もうコロナ以前にはもどけません。世界史の転換点にきています。最近はやっている歴史学者で哲学者のユヴァル・ノア・ハラリが、『ホモデウス』という本で紹介しています。飢餓、疫病、戦争が世界史の転換点。ジャレド・ダイヤモンドが書いた本でも病原菌が取り上げられているし、ウィリアム・マクニールも『疫病と世界史』という本を書いています。さらにさかのぼると、『黙示録の騎士』というロシアの画家、ヴィクトル・ヴァスネツォフが描いた絵があります(右写真参照)。

◆ つながりをリノベーションする時代 ◆

コロナ禍後、社会のありようがどうなるか。ウイルスや疫病と共存しながら、いかに民主的な世界を作っていけるかが重要です。歴史を振り返ると、幾度も戦争や疫病の時代に独裁者が現れ世の中を支配しています。

◆ 子ども食堂は、3・11後の関係性の再編の試み ◆

2018年9月25日発刊の『婦人公論』で「これからは、ちょっと誰かの役に立つ」という特集がありました。無理しないというスタンスが案外大事で、「おせっかい上等」という言葉が印象的です。子ども食堂は「近すぎず、遠すぎず」の距離感、日常の中の非日常、コミュニティ+アソシエーション、この繋がり方が混合しているハイブリッドです。「日本版DIY」(DIYは「自分でできることは自分でやろう」という理念のもとに行う諸活動)とされています。壊れたまち、家族、今までのつながりをも自分達の手で繋げ直すとする活動です。

今は、子ども食堂の8割くらいが稼働できない状況です。学校が休校で、今こそ笑顔を守ると継続しているところもありますが、けっこう大変です。それでもフードパントリーをやり、昼食付き

近本聡子さんと向井忍の問題提起について触れる紙幅がなく残念ですが、参加者からはとても刺激的な内容で勉強になったとの感想が寄せられています。

今回のオンライン開催では、質疑はzoomのチャット機能を利用しました。参加者はそれぞれ、感想や質問をリアルタイムに送信、地域の話も共有することができました。チャットで生き生きとしたやりとりができることも、オンラインセミナーの魅力だということを実感できました。みなさん、ぜひ挑戦してみてください。

で子どもを預かる活動をしたりしています。地域の子ども会、いろんな組織、家族、親族、職場という中間集団が解体して、その代わりを担うものとして子ども食堂が現れました。地域、市民、行政が参加して連携の形をつくりあげています。コロナ禍のあとを楽しみにしています。前述の『婦人公論』の特集に、サッカー監督の岡田武史さんの記事が出ていて、彼の夢は子ども食堂を開きたいとのことでした。岡田さんは先見性を持っていると思いました。

子どもを助ける観点で言えばみんなの責任です。それに対して共感を持つことが大事です。連帯経済をビルトインする取り組みが必要です。2012年に始まった全国の子ども食堂の先駆的存在の、東京都大田区の「気まぐれ八百屋だんだんこども食堂」の近藤さんは、「給食以外は、1日バナナ1本で過ごす子どもがいる」と聞いて驚いたのがきっかけで始められたそうです。

◆ AI時代に求められるモノ ◆

次の4つのCが求められます。「critical thinking (批判的志向)」「communication (コミュニケーション)」「collaboration (協働)」「creativity (創造性)」そして、最も重要なのは、変化に対処し、新しいことを学び、馴染みのない状況下でも心の安定を保つ能力です。

集いの館構想というものがあり、生協はすごく具体的に考えていると思います。コンビニのような店で、フリースペースがありよろず相談ができる場所です。一緒に考えることができるといいと思います



zoom参加のみなさんが見ている画面右下が成先生

一番左の騎士が疫病をもたらす

情報クリップ



co-opnavi 2020.5 No.818
多くの参加で実現する人とのつながり・地域づくり
日本生活協同組合連合会 2020年5月、A4判、36頁、367円

＜コープ商品のある風景＞ CO・OP国内麦 全粒粉ホットケーキミックス コープあいち組合員 乙川鮎美さん	＜生協の仲間づくりの今＞ 福井県民生協
特集 多くの参加で実現する人とのつながり・地域づくり	＜SDGS REPORT＞ コープあいつ
＜今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拜見＞ コープやまぐち 服部友香さん	＜明日の暮らし ささえあう CO・OP共済＞ 生協コープかごしま
＜想いをかたちにコープ商品＞ CO・OPミックスキャロット	＜この人に聴きたい＞ アナウンサー 中井美穂さん
＜生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品＞ CO・OP無着色ひとくち明太子	＜ほっと navi＞ エフコープ コープ共済連
＜商品と向き合う私たちの仕事＞ 商品検査（微生物検査）大阪いずみ市民生協	コミュニケーション広場
＜ZOOM IN 生協の店舗づくり＞ コープおおいた CO・OPふらいる	
＜日本全国 宅配現場におじゃまします！＞ コープみらい	

月刊JA 2020.5 vol.783
全国農業協同組合中央会 2020年5月、A4判、48頁、年間予約5,204円（消費税込）

スゴイ農業、スゴイJA JA自己改革の現場から 「生姜で福井を元気に！」を キャッチフレーズに地域を育む JA福井県・福井基幹支店女性部 ジンジャーガールズ 小川理恵	JA全国女性組織協議会とSDGs 加藤和奈
JA・農政トピック 特定生産緑地について考える -2022年に向けて JA全中 営農・暮らし支援部 営農担い手支援課	全国高校生 農業アクション大賞 尾木直樹さんが栃木県立鹿沼南高校（大賞）を訪問 先輩たちの成果を引き継ぎ、仲間との協力の結果が実る
きずな春秋—協同のこころ— 私のオピニオン 童門冬二 ハロルド・ジョージ・メイ	海外だより [D.C.通信] 連載107 医療用品の輸出制限、食料品の輸出制限 伊澤 岳
JA全中 マンスリーレポート 4月 展望 JAの進むべき道 令和元年度第4回JA営農指導実践全国大会を終えて 脇岡弘典（JA全中常務理事）	第33回 広報活動優良JA紹介 審査講評 / 広報活動を戦略的に展開 尾関謙一郎
協同組合の広場（日本生協連、JF全漁連、全森連、全国大学生協連） 協同組合とSDGs 第13回	総合の部 大賞 JAとびあ浜松（静岡県）

生活協同組合研究 2020.5 No.532
日本の森林をどう育てるのか？—私たちの暮らしと森林、木材
公益財団法人 生協総合研究所 2020年5月 B5判 88頁

■ 巻頭言 「肥満」には理由がある 中西 徹	日本の林業と森林管理の現状と課題 —担い手問題を考える— 堀 靖人
特集 日本の森林をどう育てるのか？ —私たちの暮らしと森林、木材	森林保全と木材利用の循環構築を目指して —みんなでウッド・チェンジャー— 長野麻子

木の価値を高めて林業を元気にする 赤堀楠雄
 都市の木質化における環境効果と森林資源のポテンシャル
 佐々木康寿
 持続可能な森林管理と利用を目指して
 ー森林組合の活動ー 早瀬悟史

コラム1

コープさっぽろ 未来(あした)の森づくり基金の取り組み
 柿澤宏昭

コラム2

森をめぐる体験・交流・応援の活動
 ーJUON NETWORKの取り組みー 鹿住貴之

■連載 協同組合系研究所の逐次刊行物より⑭

『城南総合研究所 調査報告書』 菰田レエ也

■新型コロナウイルスへの各国生協の対応

イギリスの生協とCOVID-19 天野晴元

スイスの2大生協とCOVID-19 鈴木 岳

■研究と調査

奈良県川上村「かわかみらいふ」による
 ー暮らし続けることのできる地域づくり

ーならコープと協働したソーシャルビジネスー 渡部博文

■本誌特集を読んで (2020.3) 見市紀世子・小林由比

■書評

牧 大介『ローカルベンチャー

ー地域にはビジネスの可能性があふれている』 中島智人

■研究所日誌

●『生協総研レポート』No.92 (2020年3月) 刊行のご案内

文化連情報 2020.5 No.506
アフガニスタンの“カカムラード” 中村哲先生を偲ぶ
 日本文化厚生農業協同組合連合会 2020年5月、B5判、80頁、文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

農協組合長インタビュー (65)

「人を育む」「農を育む」「地域を育む」

丹下和博

文化連第9次中期事業計画 (令和2年度～令和4年度)

佐治 実

院長インタビュー (319)

救急、周産期、がんを柱に新病院のもう一段の発展へ

酒井義法

二木教授の医療時評 (179)

医療の質・効果の評価について原理的に考える

ー「アウトカム」「客観的根拠」絶対化の批判的検討

二木 立

インタビュー

アフガニスタンの“カカムラード” 中村哲先生を偲ぶ

レシャード・カレット

私たちは何を食べているのか (2)

ゲノム編集食品 (2)

家畜のゲノム編集、特許、

種の絶滅を目的とする遺伝子ドライブ

安田節子

国民が安全安心に暮らせる社会の構築 (2)

韓国の社会的協同組合と社会的企業の事例 友岡有希

多様な福祉レジームと海外人材 (25)

失踪の構造：失踪後の就労はどうなっているのか

安里和晃

臨床倫理メディエーション (41)

感染予防に潜む倫理ーCOVID-19 感染流行 (1) ー

中西淑美

全国統一献立

岐阜県の郷土料理 けいちゃん

牛丸貴美子

「古地名」から探る日本語の起源 (下)

村上一彦

野の風●

地域で活動する障がい者の自立生活支援を目指して

石井功樹

デンマーク&世界の地域居住 (131)

地域がひとつになって取り組む地域包括ケア

(長崎県佐々町2)

松岡洋子

熱帯の自然誌 (50) フタバガキの原生林

安間繁樹

ドイツの介護保険制度 (8)

アルツハイマー協会リュッセルスハイム支部 (4)

補足と日本への示唆

小磯 明

◆日本文化厚生連 主要人事のお知らせ

◆第22回厚生連医療経営を考える研究会 中止のお知らせ

□自著を語る

小作農民の歴史社会学

「太一日記」に見る暮らしと時代

／ 細谷 昂

□書籍紹介

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む

82年生まれ、キム・ジョン

2019年世界の社会福祉年鑑 第19集

▶線路は続く (142)

加古川線 播州平野をゆく

／ 西出健史

生協運営資料 2020.3 No.312

電気小売事業を続けることで電力自由化の意義を問う

日本生活協同組合連合会 2020 年 3 月 B5 判 96 頁 886 円 (送料別)

巻頭インタビュー ●わが生協かくありたい!

事業の刷新を実現した財産を生かし

20 年に一度の変革期を乗り越える

コープあいち ●代表理事 理事長 森 政広氏

4 パイオニアとしてエネルギーのあり方だけでなく

地域の持続可能性も市民参加型のスキームで追及

NPO 法人北海道グリーンファンド ●理事長 鈴木 亨氏

●これからの店舗事業のあり方を考える

第 23 回

マス・マーチャンダイジングと売り場の改善の促進に

ID-POS を活用する

コープデリ連合会 ●店舗営業部

マーケティングシステム企画 次長 齊藤 繁氏

●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ

第 36 回

グローバル IT 企業との競争の鍵を握るのは

自らの仕事を革新する顧客ファーストの実践

立教大学ビジネススクール ●教授 田中道昭氏

特別企画

津波被害の記憶を呼び起こす河川の氾濫を目にし

これからも産直産地と共歩んでいくことを決意

みやぎ生協 ●生活文化部 産直・食の活動事務局

和賀恵治氏

機関運営部 機関運営課担当課長 藤田 孝氏

特集

電気小売業を続けることで

電力自由化の意義を問う

1 大手の電力・ガス会社との価格競争に宅配事業と連携した営業戦略で立ち向かう

大阪いずみ市民生協 ●

サービス事業部サービス事業グループリーダー

片野浩和氏

エネルギー・通信担当

岸田大輔氏

宅配営業部 部長

正木浩仁氏

2 価格よりも電源にこだわり、

生協の強みを生かし持続可能な

「コープでんき」の価値を訴求する

コープこうべ ●供給事業部 電力推進 統括

宇津井英輝氏

環境推進 エネルギー担当係長 大谷常雄氏

3 再エネの条件不利地で電源を市民レベルで開発シェアリングエコノミー時代の電力事業に挑む

おきなわコープエナジー (株) ●代表取締役社長

嘉手川繁之氏

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

※189 号は、企画案内をお休みさせていただきます。

地域と協同の研究センター 6 月の予定

17 日 (水) 三河地域懇談会世話人会

24 日 (水) 尾張地域懇談会世話人会

第 6 期「協同の未来塾」を 6 月開講予定でしたが、新型コロナウイルス

ルス感染を考慮し 7 月開講に変更しました。

企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期することがあります。ご参加の前にホームページ等でご確認ください。

地域と協同の研究センターNEWS189 号

発行日 2020 年 5 月 25 日 定価 200 円 (税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸 城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通 1 - 3 9 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiki-kyodo.net/>